

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立青嶺中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の時間の確保、内容の充実をめざし、自学用問題集を取り入れ、学習の目標、中間の振り返り、最後の振り返りを行なった。さらに、育友会と連携して、家庭学習とスマートフォンの使用についてのルールづくりを行った。卒業生については、学習時間も、学力もかなり向上した。しかし、2、3年生の学習時間は、まだ、全国平均を下回っている。今後も、家庭や育友会と連携したり、学習に関して自分で自分をマネジメントできる生徒の育成が必要である。 豊かな心を育てるために、学校行事の充実や道徳教育（人権・同和教育を含む）、自問自答を充実させ、効果が上がった。しかし、将来の夢を持っている生徒の割合が、全国平均と比べても低かった。今年度は、キャリア教育に力を入れる必要があると考えられる。 超過勤務時間の削減は進んでいるが、月45時間以内は達成できたものの、年間360時間以内は今年度達成できなかった。次年度は、夏以降、すべての部活の顧問2人体制が整備されるので、更に超過勤務時間が減ると考えられる。さらに、いろいろな面で今後、学校、家庭、地域が連携して子どもを育てる学校を目指す必要がある。

2 学校教育目標	望ましい人間関係を育み、自ら考え自ら行動する生徒の育成を図る。
----------	---------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①生徒が自分の学習についてマネジメントできるようにするため、自分で学習計画を立て、日々や中間の振り返り、最終の振り返りを行なわせる。また、育友会と連携し家庭での学習習慣を身につけさせる。さらに、今年度から導入されるタブレットPCなどのICT機器を活用し、学力向上を目指す。</p> <p>②将来の夢をもっている生徒の割合が、全国平均と比べても非常に低かった。今年度は、いろいろな職業について知り、自分の将来の目標をもたせるとともに、キャリアデザインを考え、今の自分の生き方につなげるように指導を行う。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 タブレットを活用し情報活用能力を育成するとともに、自己の学習をマネジメントする力を育成し、学力向上を目指す。	●各種テストにおいて、県平均を上回る。	・全教科でタブレットを活用し、基本的な操作を習得させる。また、学び合いや表現活動など問題解決・探究場面で効果的に活用する。 ・授業や家庭学習の計画作成や振り返り、改善をとおして、自己の学習をマネジメントする力を育てる。	A	・3年生のSAGAテストでは、5教科の県平均が118.7点に対して、青嶺中は117.2点とわずかに下回った。 ・5月の全国学力・学習状況調査では、国語は県平均を1ポイント上回り、数学は県平均を5ポイントも上回った。 ・タブレットの活用は、市内でも先行して多く活用できているが、同時に多数が使用すると、よく動かなくなる。	A	・12月の県学習状況調査では、2年生が全教科で県平均を上回り、特に国・英・理では10ポイント以上上回った。1年生は、2教科で県平均を上回った。 ・タブレットの基本的操作に関しては、97%が肯定的な回答だった。 ・自己の学習をマネジメントする力については、66%が力が付いたと答えた。	A	・このように学力がアップしてきている。是非、市内の小中学校にも指導方法や情報の共有をしてもらいたい。 ・自己学習のマネジメント力が更に向上するように指導をお願いします。 ・タブレットの活用が活発になされていて、今後も継続していただけたらと思います。
	○家庭学習の充実	○毎日の家庭学習を1時間以上する生徒の割合を80%以上(H30年度全国平均70.4%)	・育友会と連携して、スマートフォンのルールづくりと家庭学習のルールづくりを行う。 ・発達段階や能力に応じた問題集を個別に選択させ、主体的な家庭学習に取り組ませる。	B	・育友会と連携して、スマートフォンの所有状況等を調べた。 ・所有に関しては、1年生が63%、2年生が54%、3年生が81%であった。 ・ルールに関しては、1年生が21%、2年生が48%、3年生が72%が決められていると答えた。 ・家庭で、3時間以上勉強する3年生は、全国が12.3%なのに対して本校は6%であった。この改善が急務である。	B	・毎日の学習時間を1時間以上している生徒は79%だった。ただし、2時間以上は26%と少なく、今後も家庭学習の充実に向けて指導していきたい。 ・全学年で取り入れた「習熟度別問題集」については、57%が家庭学習に活用したと答えて、主体的に学ぼうとする姿が見られた。	B	・家庭学習の時間がさらに増えるように、家庭への啓発と生徒への進路意識を高める工夫ができればと思います。 ・引き続き、家庭学習の充実に向けて指導をお願いします。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒90%以上 ○行事後の振り返りでの肯定的な自己の振り返り90%以上 ○「自分にはよいところがある」と思いますが「自分にはよいところがある」と思わない生徒が「あると思う」と回答する。(H30年度の全国平均78.8%)	・人権講座や集会など、年間計画に適切に位置づけ、人権・同和教育を推進する。 ・「考え、議論する」道徳を実施し、生命尊重や思いやり、倫理観、正義感などを育てる。 ・学校行事において、生徒が主体となり活動する場や機会を設定し、目標を持ち振り返りを通して、自己肯定感を育てる。	A	・人権集会では、生徒が書いた人権作文を讀む形をとって、人権感覚を深める良い機会になった。 ・道徳では、校内研修で道徳教育推進教師自ら授業を公開し、全教師で参観することで研修が深まった。 ・自分の良さや自信を持っている生徒の割合は、3年生調査で73.5%だったが、「特にそう思う」は14%で、全国平均の34.5%に比べ少ない。自己肯定感を高める手立てが必要である。	A	・道徳のアンケートに対して肯定的に回答した生徒は、98%、「考え・議論する道徳」の授業に積極的に参加できた生徒も89%となっており、達成できた。 ・「自分にはよいところがある」に関して、肯定的な回答をした生徒は76%で、中間評価時点より改善した。 ・中間評価を受けて、「行事などの振り返りを通して自己肯定感を育てる指導を行った」に関して肯定的な回答をした教職員は100%だった。	A	・自己肯定感が養われ、行事にも意欲的に取り組んでいるところがいいと思います。 ・「自分にはよいところがある」に肯定的な回答をする生徒が更に増えたいですね。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・毎月、生活アンケートを行い、いじめの早期発見に努める。 ・生徒指導協議会の中で、気になる子の情報を出し合い、共通理解を図る。	A	・毎月、生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めているが、5月に3年生女子で、仲間外れが1件発生し、「いじめ」として学校が認知し、市教委にも報告している。学年と養護教諭、保護者の連携でその後解決した。	A	・いじめの防止(組織的対応・早期発見)ができたことについて、肯定的な回答をした教職員は100%だった。 ・生徒指導協議会や学年会などを通して、気になる子への共通理解が図れたことに関して、肯定的な回答をした教職員は100%だった。	A	・今後もこのようになってほしいです。素晴らしいと思います。 ・回答率の算定が教職員のみなので、生徒や保護者の回答が気になります。 ・小学校では、職員と保護者に評価の差があったようですが、その点中学校はどうですか。
●健康・体づくり	◎生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 ○朝読書の充実と家読の推進	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上にする。 (平成30年度全国平均94.9%)	・学年の発達段階に応じた進路指導を充実させる。とくに、キャリアパスポートについては工夫して活用する。 ・いろいろな職業について知る。(1年生) ・将来の目標について、キャリアデザインを考えさせる。今の自分の生き方につなげる。(2年生) ・高校について知り、自分の進路を決め、実現するために行動する。(3年生) ・生徒会による読書活動の推進を図る。	A	・「将来の夢や目標を持っている」については、3年生の調査では、肯定的な回答は73.5%だった。そこで、9月にオリンピック代表の柳本幸之介選手を招いて「先輩と語る会」を開催し、全校生徒にいい刺激を与えていただいた。 ・今年度は、新型コロナウイルスの影響で、1年の職場見学と2年生の職場体験が実施できなかった。それに代わるものとして、グローバル人材育成講座を開催し、海外で活躍された講師を招いてSDGsやキャリア教育について深く学ぶことができた。	B	・「将来の夢や目標を持っている」については、肯定的な回答は71%だった。1学期の調査よりも約3%下がったので、目標の80%以上にするために、さらなる進路学習などの取り組みの強化を図りたい。 ・今年度は、新型コロナウイルスの拡大状況下でも、1年生では職業調べ、2年生ではSDGsの学習を通して将来就きたい職業について考えることができた。また、3年生では将来を見据え、計画的な進路学習に取り組む、しっかりと自分の進路を決めることができた。	B	・目標の80%を達成できるように頑張ってください。 ・全国平均と比べて、目標を低く設定しているにもかかわらず結果が更に低いのは、地域性もあるのかなと思う。 ・伊万里市初のオリンピック選手が青嶺中から出たことは、いい刺激になったと思います。また、家読は、夢や目標を育む心の教育として貴重なものだと思います。 ・朝読書、家読に対する成果指標が必要ではないか。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休止日の設定 ・施設時間の設定・掲示	A	・水曜日を定時退勤推進日と定め、17時にはおおよそ退勤できている。	A	・水曜日は確実に17時までに全職員退勤できている。また、平日も「部活動終了1時間で退勤しよう」の呼びかけに応える教職員が増えた。 ・昨年度より、土日や祝日の部活動休業日が増えている。	A	・時間外勤務を減らすのは、1人ひとりの意識が必要です。部活動との両立が大変ですね。 ・改善は進んでいますが、他の職場からすると遅れているのではないのでしょうか。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○年休の取得を増やす。 ○超過勤務の時間を意識して仕事をさせる。	○長期休業中を中心に、年間10日以上年休をとった職員が80%以上 ○年間の超過勤務の時間が月平均40時間以内の職員の割合が70%以上	・管理職が年休取得を推進することを職員に伝えるとともに、個別に声掛けを行う。 ・毎月、個人ごとに超過勤務時間(月ごとの時間と総時数)を知らせ、年間360時間を意識して仕事をさせる。	A	・年休平均取得日は、9月末現在で7.3日であり、計画通り取得できている。 ・年間の超過勤務時間月平均は、8月以降の下校時間の早まりに比例して少なくなってきた。	B	・全職員の年平均取得日は11日だったが、年間10日以上取得できた職員は67%で、目標に届かなかった。 ・年間の月平均超過勤務時間40時間以内については、達成率が50%にとどまったので、さらに改革が必要である。	B	・年休、超過勤務についてはまだまだ改善の必要あり。 ・年休取得については、先生方はなかなか難しいと思いますが、期間を設けて対策はされていないでしょうか。(1学期は5日間取得とか)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員100%	・特別支援に関する職員研修会を実施する。 ・ケース会議の開催し、情報とそれに基づく対応方法を共有する。	B	・校内支援委員会の中でケース会議を行い、配慮を要する生徒に関して共通理解をすることができた。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、職員向けの研修が延期となっている。	B	・コロナ禍で、講師を招いた研修会は実施できなかった。 ・校内支援委員会3回、ケース会議3回実施。 ・転入生(知的学級)の受け入れで、全職員で準備や話し合いを重ねたこともあり、専門性が向上したと回答したのは90%だった。		B

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・今年度はGIGAスクール構想の実現のため、スーパーティーチャーを中心にタブレットを活用した研究授業に全職員で取り組み、指導案の検討から授業後の振り返りまで議論することで授業の質を上げることができた。 ・特に、2年生の県学習状況調査では、県平均を全教科で上回り、中でも国、英、理では10ポイント以上上回るなど学力の向上が見られた。 ・心の教育では、道徳教育推進教師が自ら「考え、議論する」道徳の授業を提案し、指導案の検討から授業後の振り返りまで全職員で取り組むことで、その後の各学級での道徳の活性化が見られた。 ・教師の働き方改革については、平日の退勤が早まったが、長期休業中の取得が思うように増えなかった。職員の意識改革と共に保護者の理解を得ながら、平日や土曜日など部活動を交互に出るなど目に見える改革が必要である。 ・「地域と共に歩む学校」を評価項目に加え、幼・小・中・地域の連携を深め、独自の取組を企画したい。</p>
----------------	---